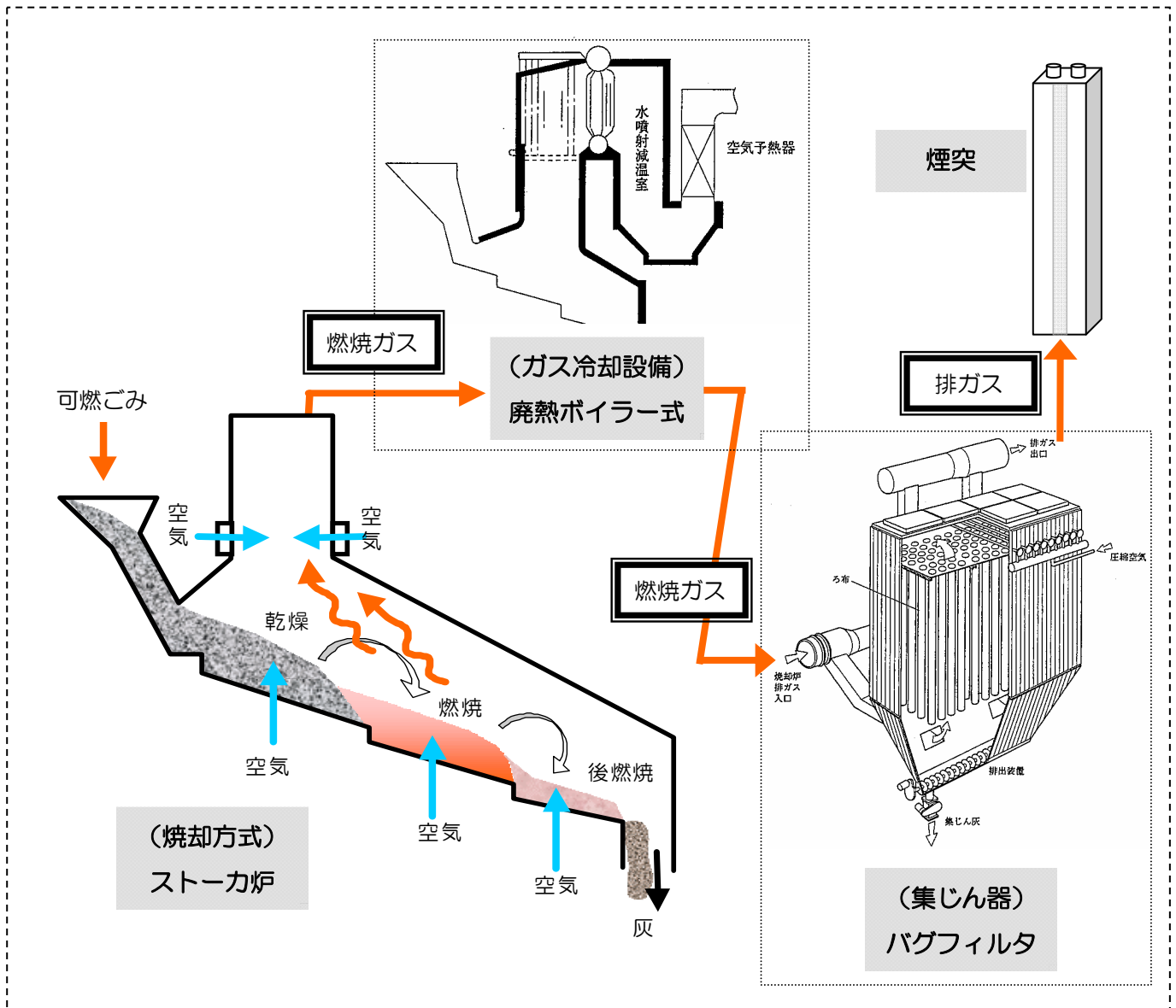


一般廃棄物の広域処理に係る経過説明会 資料



平成 24 年 1 月 北アルプス広域連合

ご不明の点などありましたら、お気軽にお尋ねください。



ごみ処理広域化推進係 (担当: 白澤、中島)
 電話: 0261-26-3545 FAX: 0261-22-7011
 E-mail: kitaalps@kita-alps.omachi.nagano.jp

1 なぜ、大町市三日町の候補地を断念したの？

(1) 三日町候補地の扱いについて

ごみ処理施設検討委員会からの建設候補地についての提言に基づく調整を白紙に戻し、大町市三日町を候補地とすることを断念しました。

【理由】

- ① 今回の選定については、極めて高い公平性、公正性、透明性を確保して候補地が選定されたものでありますが、正確な情報が伝え切れないまま、三日町自治会による住民投票が行われ、その結果、自治会の総意として建設反対が表明されたこと。
- ② 「地元の合意を得て事業を進める」と表明してきた経緯から、地元の理解と協力を得ずに事業推進することは困難であること。
- ③ 三日町自治会等における意思決定過程で出された反対意見、或いは、今回のアンケートの意見は、三日町候補地における立地が不可能な理由とは考えにくく、引き続き説明を重ねて、粘り強く合意形成を図るべきとの意見もあるが、現在の二つの廃棄物処理施設の老朽化が進んでおり、早急な推進が求められていること。
- ④ 一部の住民を中心に強硬な反対があり、打開策を探る糸口を見出すことは相当な時間が必要となること。また、今回のアンケートの回答に、これ以上自治会を混乱させることは避けてほしいとする意見も多く寄せられていることから、今後の自治会の円滑な運営に懸念があること。

(2) 三日町住民アンケートの結果について

- ・目的 今後の方針の検討に先立ち、これまでの進め方の検証を行うため。
- ・お聞きした内容 自治会の住民投票により受け入れ反対となった理由や背景など。
〔 三日町自治会長に、三日町地区ごみ処理施設建設問題対策委員会委員長及び事務局長に対し、意見交換会開催の要請してまいりましたが、いずれも応えていただけなかったことから、アンケート形式により、お聞きすることとしました。 〕
- ・対象 三日町在住の20歳以上の方309人
- ・結果 125人（回収率40.5%）

反対の理由 複数回答あり	(人)	主な意見
環境への影響	18	「ダイオキシンが気になるから」、「居谷里の水が無くなる」、「農産物への悪影響」
活断層・地震に対する不安	8	「地震の被害、建物倒壊と住宅及び山林火災が心配」
自治会内の人間関係	7	「賛成なんて言える状況になかった」
候補地の選定方法	2	「住民に何の説明もなく立候補した経緯が許せない」
広域連合の進め方	2	「地元説明会が遅い」
その他	14	「どんな説明があっても不安」、「今さらアンケートとはどういう事か?」、「精神的負担が大きい」

2 今後の進め方はどうするの？

(1) 新たな候補地選定について

地元理解の要素をより重視した方法など広範な検討を行い、関係市村や議会とも協議して決定してまいります。

【基本的な考え方】

- ① 建設候補地の選定については、ごみ処理施設検討委員会からの提言に基づく調整を断念し、改めて選定方法を検討します。
このため、検討委員会において絞り込まれた大町市三日町を含む6か所全ての候補地について、総合評価の順による検討は行いません。
- ② アンケートに寄せられた反対理由の多くから、漠然とした不安が払拭できず、施設に係る情報を十分に受け入れられていなかったことが明らかとなりました。
このため、先進的な廃棄物処理施設の視察や講演会などの機会を数多く設け、一般廃棄物処理の現状について、住民の更なる理解を得るよう努めます。
- ③ 透明性、公平性、客観性を確保して選定された候補地であっても、地元の合意に至らなかったことに鑑み、地元理解の要素をより重視し、思い切った手法の変更も含め、広範な検討を早急に行います。
- ④ アンケートの回答から、施設建設に伴う地域の振興や雇用への期待がある一方、具体的な内容について早期に提示すべきであったとの意見も寄せられました。
このため、予め公共事業の優先順位や地域の課題を考慮するなど、施設建設に伴う周辺地域の具体的な振興策を講ずることを明確にします。
- ⑤ 引き続き、建設費の削減や稼働後の維持管理費の軽減を図ること等を目的に、「ごみ処理広域化基本計画」及び「ごみ処理施設基本計画」については、関係市村と協力しながら、その推進を図ります。

(2) 広域化のメリット・デメリット

- 施設整備費用と稼働後の維持管理費の大幅な削減（別表1）
- 施設の集約化により、環境への影響を低く抑えることが可能
- 収集運搬に係る経費が増大する可能性（建設場所による）

（別表1）

項目	大町市単独	白馬山麓環境施設組合	広域連合
施設規模（※1）	25 t/日	15 t/日	40 t/日
建設費（※2）	21億円	15億円	28億円
維持管理費（※3）	31億円	23億円	41億円
建設費・維持管理費合計	52億円 ①	38億円 ②	69億円 ③
比較（③-②-①）			△21億円

※1 平成26年度ごみ量予測により、平成15年12月の環境省通知により算定。

※2 平成元年～平成25年度（竣工）までの受注実績の規模別単価による。

※3 業者11社が稼働後15年間の維持管理費を見積もった額の平均額による。（平成19年調査）

(参考1) 十分な理解が得られなかったのは、どんな点ですか？

Q1 一般廃棄物処理施設の下流域が汚染される。

A1 洗浄水などの施設内で使用した水は炉の冷却水などに再利用されるため、地下浸透や河川放流により施設の外に出ることはありません。

また、施設内のトイレや洗面所で発生する生活排水についても、その全量を浄化槽で水処理した後に、同様に場内で再利用されます。(建設場所によっては、生活排水のみを下水管に繋ぎこむ場合もあります。)

したがって、下流域が汚染されることはありません。

Q2 煙突からダイオキシンが撒き散らされる。

A2 排ガスに対する高度処理技術が確立しており、ダイオキシン類に限らず、有害物質のほぼ100%が除去できます。

Q3 他の焼却施設でも、煙突から白煙が多量に出ているので心配。

A3 煙突から出ている白い煙の正体は、高温で排出された排ガス中の水蒸気が、大気中で冷えて凝固し、細かい水の粒になったものです。

実際に煙突から出る白煙をご覧いただくと、煙突出口ではほとんど見えず、少し上昇したところ(冷えて水の粒になったところ)で見えることが分かります。

したがって、寒い日や湿度が高い日に見えやすくなり、冬季の非常に気温が低い日には、ほぼ出口直後から白く見えることがあります。(やかんでお湯を沸かした時の湯気や、吐く息が白く見えるのと同じ原理です。)

Q4 施設の稼働すると、パッカー車などの交通量はどの位増えるのか。

A4 パッカー車はおおむね1日30~50台を見込んでおります。

Q5 農作物への被害が心配。

A5 現在、施設の技術水準は非常に高く、国の定めた排出基準を十分にクリアしており、問題はないと考えています。

また、全国の新しい施設の周辺で、採れた農作物が売れないとか、他の地域の作物より価格が低いといった風評被害は聞いておりません。

県外には、施設の余熱を利用してハウス栽培を行っているところさえあります。

Q6 活断層が近くにあるので、施設の倒壊や火災が心配。

A6 最新の焼却施設は、緊急時に安全に稼働を停止する方法が確立されており、災害などの万が一の場合も、施設周辺に影響を及ぼすことはありません。

また、施設の建設については、耐震基準等を満たすだけでなく、調査により明らかになった地質構造を踏まえ、より安全な位置、配置、構造を検討します。

なお、前回の候補地選定では、直下の断層が動いて地表面にずれが生じた場合に施設の被害を防ぐため、活断層直上を除外するとともに、活断層周辺の破碎帯は建物を建てるのに不向きな地盤であることから、破碎帯の存在する可能性のある範囲を避けて候補地が選ばれていました。

(参考2) これまでの主な経過

年 月	概 要
平成 19年 2月	建設候補地として、白馬村飯森地区を選定。
21年 2月	建設候補地（白馬村飯森地区）を断念。
10月	<p>ごみ処理施設検討委員会を設置し、検討がスタート。</p> <p>（目的） ・ごみ処理広域化基本計画及びごみ処理施設基本計画の見直し ・ごみ処理施設建設候補地の選定</p> <p>（委員構成） 学識経験者 3名 公募による住民代表 7名 広域議会議員 2名 団体代表者 7名（計 19名）</p> <p>（開催期間） 平成 21年 10月 29日～平成 22年 10月 12日（全 13回） この他、住民意見交換会（6か所）、先進地視察（1回）を実施。</p> <p>（会議運営） 会議は原則公開し、会議資料は広域連合ホームページで公開。 検討状況は、「検討委員会だより」を計7回全戸配布して周知。</p> <p>（住民意見） 候補地や評価項目・評価方法等について、期間を決めて募集。 その他の意見については随時受け付け、検討委員会に提示。</p>
22年 10月	<p>ごみ処理施設検討委員会から提言を受ける。</p> <p>（提言内容） ・建設候補地として大町市三日町を選定。 ・ごみ処理広域化基本計画及びごみ処理施設基本計画の見直し</p>
11月	大町市三日町において住民説明会（1回目）を開催。
23年 3月	三日町自治会内に三日町地区ごみ処理施設建設問題対策委員会（以下、「対策委員会」）が設置される。
4月	対策委員会より質問書が提出される。
5月	質問書に対する回答書を対策委員会に提出。
6月	対策委員会委員長招集の三日町住民集会において、建設反対の方針を自治会に答申することが決定される。
7～8月	大町市、白馬村、小谷村にて経過説明会を開催（延べ4回）
8月	大町市三日町にて住民説明会（2回目）を開催
9月	建設候補地にて、現地見学会を開催（2回）
10月	<p>三日町自治会による建設受け入れに関する住民投票が行われる。 （賛成104票 反対161票 無効7票 計272票）</p> <p>三日町自治会から、自治会住民投票の結果、住民総意として建設反対の表明を受ける。</p> <p>三日町自治会長、対策委員会に対し、懇談会・意見交換会の開催を要請。</p>
11月	三日町住民（309名）を対象にアンケートを実施。（回答 125通）
	建設候補地（大町市三日町）を断念。